

～第57号の主な内容～

- 〈1面〉 社専事務センターと教員研究室が13号館に移転
- 〈2面〉 社専アーカイブズ
- 〈3面〉 社専ソフィア会
- 〈4面〉 新任教職員紹介  
教員リレーコラム、他

# 社専だより

第57号 2016(平成28)年7月31日

編集・発行：上智社会福祉専門学校

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL 03(3238)3021

ホームページアドレス <http://www.sophia-sw.jp>



## 社専事務センターと教員研究室が 一三号館に移転

前号でお知らせした通り、今年の二月一日(木)より、社専専任教員の研究室はこれまでの一号館一階から一三号館の二階に移転しました。続いて三月一四日(月)に、社専事務センター及び社専会議室、社専ソフィア会事務室等が、同じく一三号館二階に移転しました。社専学生の授業が行われる教室は、従来通り三号館の一階と五階、四号館



13号館正面玄関



社専事務センター (13号館2F)

### 三科合同卒業レポート 報告会が実施されました

一階教室等で、それまでと変わりありません。教員は教室に移動する際の道のりが、若干これまでよりも長くなり、学生も教員の研究室を訪ねるときには移動距離が長くなりました。四谷キャンパスでは、「Sofia」タワーの建設が進んでおり、二〇一六年度は社専学生のキャンパスの環境が大きく変わることとなります。

社専にとって初の試みである三学科(保育、社見、介護)の合同卒業レポート報告会が二〇一六年二月二六日に四ツ谷キャンパスで開催されました。開催に当たっては、高山先生からの挨拶があり、続けて各学科の卒業レポート優秀賞三名の報告が行われました。卒業生の参加もあつてか、一二号館一階の大教室は満席で立ち見も出る状態でした。当日、分科会も含めて参加した卒業生からは以下のよ

うなコメントがありました。「予備知識なしで参加しましたが、非常に楽しく有意義な会でした。懐かしい恩師や同級生との再会。そして、頼もしい後輩達の研究発表! 感心しました。キーワード、研究方法、結果と考察、参考文献。自分の卒レポは、こんなにちゃんとしてなかったなあ。テーマも多彩で興味深く、質疑応答で在校生と交流もでき

嬉しかったです。在校生、卒業生、教員の皆様それぞれに得る所のあった発表会だったのでないでしょうか。次回も是非参加させて頂きたいです。」(二〇〇四年介護福祉士科卒業柴田周也さん)  
写真は、今年度の卒業レポート報告に向けて六月五中間報告会を行っている介護福祉士科二年生です。年明けには充実した報告が聞けるでしょう。

### 精神保健福祉士通信課程にeラーニングが導入されました

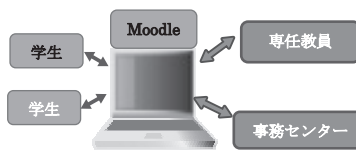
ネットやメール、SNSの時代に、実は通信課程でありながら、郵便でレポートの受け取りを行ってきた精神保健福祉士通信課程。一週日までに届くのかと不安で問い合わせた、「速達にしてもらった」当日消印を確認するため、郵便局に夕方走りこんだ」という学生から聞く涙ぐましいエピソードは枚挙に暇がなかったものです。私は学生の一人ひとりと文通しているような気分で郵送で届いたレポートを読み、コメントを書き、それを郵送するというゆつたりした時間が増えて不満はなかったのですが、スクーリングという八〇人規模の授業はどうにか工夫したいと思っていました。大教室でも学生からの質問を気軽に受け、学

生同士で討論できないか、と。今年から、遅ればせながら上智学院が導入しているMoodleというeラーニングソフトを精神保健福祉士通信課程の学習管理に導入しました。これは学生が通信課程授業を登録さえすれば、簡単にメールでレポートの提出ができ、質問ができ、学校や教員からのお知らせをネットの中に掲示でき、関連資料を各自でダウンロードして読んでもらえる機能がある、というすぐれモノです。フォーラムという会議システム機能があつて教員を交えて学生同士で討論ができます。学生はネット環境さえあれば、自宅でも職場でも、通勤途中でも(スマホ)活用できます。

精神の学生は若者というよりは年季の入った社会人が多

いたためか、eラーニングを活用しない人もいるしフォーラムを利用する人もまだ少数ですが、いずれネットでグループワークができればと来年に向けて計画中です。今度は文通ではなく、メル友がたくさんできたような気分で進めています。これからは「1期日の深夜〇時にレポートを送ろうとしたらパソコン操作でもたついて一分過ぎてしまった」などという悩みが寄せられるのでしょうか。

(精神保健福祉士通信課程 教員 山本由紀)



# ～社専アーカイブス～

創立50周年(2013年)を機に、昔の写真資料で社専の歴史を振り返るシリーズ、今回は1990年代です。

1993年に介護福祉士科が開設、全国初の夜間課程として注目されました。それに伴う実習室新設や専任教員の増員があり、学生数も増えて、90年代後半から2000年にかけては、創立以来最多の500名近くが在籍していました。



### 〈写真説明〉

- 1 1991年11月、翌年解体される旧2号館での最後の社専祭。卒業生の公開討論「社専フォーラム」の1コマ
- 2 介護福祉士科開設に伴い設置された介護実習室(写真は94年の社専祭)
- 3 同じく入浴実習室(98年の授業風景)
- 4 1995年7月の学校説明会。94年8月に第1回、以後現在まで毎年開催されています
- 5 国立オリンピック記念青少年総合センター(代々木)で開催された1998年4月のオリエンテーション・キャンプ。学生数が増えて秦野キャンパスに入れなかったため、会場を変更しました(97～2001年)
- 6 1999年の社専祭。総合図書館前のテント会場



社専ソフィア会熊本県支部

熊本県支部活動状況報告

社専らしく質素に気取らず無理をせずの方針で発足してから約三年、計五回の同窓会を開きました。

初回は交通手段を優先して場所を考え、バス、JR、高速、バイパス沿いの「神園山荘」にて初顔合せとなりました。社専ソフィア会から三浦会長をお招き(実際は自腹)し、上智の現況を詳しく説明して頂きました。個人情報管理の厳しさもあり事務局を通しての発信となった為、返信を下された方のみへの案内で同窓会は続行していくことに決定しました。

社専ソフィア会

事務局 TEL&FAX : 03 - 3238 - 3027

E-mail : syasensophiakai @ honey.ocn.ne.jp

二回目は一期生の富田美智子シスターが運営されている「八代ナザレ園」を訪問し、児童福祉施設の現状や社会人として求められる接遇面のお話を夢中で聴きました。八代ナザレ園はこの春更新築されましたので、再度見学させて頂き、シスターの福祉事業家としての姿に学びたいと思います。三回目は熊本駅ビルの居酒屋に集まり、男性のみの二次会はどうだったのか謎のままです。四回目は創作和食の「かけはし」で静かな食事会になりました。五回目は民家で一日二組限定の「わたしの台所和」を予約する幸運に恵まれました。おかみさんの温い料理と気遣いにすっかり安心し、社専時代に戻ったかのようなケースカンファレンスに発展、ついに心の底から今苦しんでいることを吐き出してしまいました。傾聴、受容、共感という言葉を実感できた瞬間でした。さすがだなあとと思うと共に、次回は私が聴く番になるかと誓いました。

同窓会の呼びかけに対し、高齢化と移動手段の無理を理由に辞退される方の心情を思いつつ、これからも遠きおせっかいを続けていこうと思っております。竹下昌代(第十四期生) ◎熊本県支部は二〇一三年九月に発足しました。参加資格は「熊本県在住の社専ソフィア会会員」、現在の参加者は七名と、三浦会長です。新規参加者も募集中、希望者はいつでも大歓迎です。連絡先は竹下さん (TEL 〇九六二四八八一三五四三 または〇九〇一三六八一七八一)

精神保健福祉士 通信課程 卒業生学習会 Wa-sophia

Wa-sophiaは精神保健福祉士通信課程(短期)を二〇一二年度に卒業した演習グループの有志がその後も継続的で自主的な卒業勉強会をしたい!との想いがあり、その想いを社専の山本由紀先生がサポートすることで始まった学習会です。第一回目の学習会は二〇一三年五月、晴れて精神保健福祉士となったメンバーが児童・家庭福祉分野の事例を話題に参加者八名でスタートしました。二一三か月に一度の頻度で学習会は継続され、二〇一六年六月には十七回目を数えています。内容は多様な福祉・医療・教育などの実践現場(具体的には児童養護施設・SSW・母子生活支援施設・DV被害者問題・精神保健福祉センター・特別養護老人ホーム・病院内のMSW・司法福祉関係)で活躍しているメンバーが自主的に話題提供し自由・闊達な議論を展開しています。第四回目からメンバーリストも誕生し、会員同士の情報提供・連絡調整に活用されています。オプジョンとして二つの少年院(女子及び医療少年院)の見学学習会も企画・実施されました。二〇一四年十二月に学習会が社専ソフィア会傘下の団体となつてからは、毎年精神の卒業生が新規入会して参加メンバーは二十〜三十人に増えてきています。六月の学習会では新たな試みとして日頃の実践を互いに振り返るピアスーパージョンを実施しました。

Wa-sophiaとは卒業生の仲間を大切にしたいという思いから名づけられたものです。卒業生の輪が広がっていくことを願ひ、皆さまのご参加をお待ちしています。代表 市川太郎 (第四十九期生) ◎Wa-sophiaの学習会情報は、社専ホームページに随時掲載されます。連絡先は山本先生

お知らせ

■二〇一六年度総会を開催します 日時:十月一日(土)午後場所:上智大学十二号館講演会講師: Sr.富田美智子(第一期生、八代ナザレ園園長) テーマ:八代ナザレ園の事業と、社専創設期に関する内容で依頼中 \*今年度の総会は「上智レンコンミーティング2016」と同日・同会場での開催になります。詳細は同封の「総会のお知らせ」をご参照ください。 ■「ホームページをリニューアルしました」 本年三月に、社専ソフィア会ホームページの内容を一新しました。準備中の項目もありませんがこれから整えていきます。ご感想やご意見・ご要望などありましたら、社専ソフィア会事務局まで。 ■「クラス会等サポート事業」のご案内 本事業は、会員が同期会、クラス会等を開催する際に、開催通知などの発送と印刷・郵送費の補助を行うものです。近年、個人情報保護法の関係で会員名簿の作成ができないため、代替として二〇〇六年度より事業開始しました。同期会やクラス会開催をお考えの皆様、ぜひご利用ください。 なお、ホームページのリニューアルに伴い、ご利用案内と申込書をダウンロードできるようにしました。「社専ホームページ」▽「卒業生の方へ」▽「社専ソフィア会」▽「クラス会等サポート事業」にリンクがあります。 HPからの入手が困難な場合は、資料をファクスまたは郵送でお送りしますので、社専ソフィア会事務局までご連絡ください。 ■同窓会費の免除について 「平成二十八年熊本地震」で被災された会員の方は、今年度の会費納入を免除します。詳しくは同封「会費納入のお願い」をご覧ください。

教員リレーコラム ④

「感謝の一言」

私は大学院を修了してから、すぐ上智社会福祉専門学校に就職しました。就職したとき、何を教えたらいのか、授業の教え方も、十分に理解できていませんでした。しかし、学ぶこと



陳麗婷

に真摯な学生さんたちのやり取りで私も何をすべきなのかを少しずつ学ばせて頂きました。特に国家試験対策の技術的な次元にとどまらず、福祉の本質について質問してくださる学生さんたちとのやり取りは魅力でした。まだ足りないところも多々ありますが、真剣に学ぼうとする学生さんたちに触れて、私も育てて頂いたと感謝しています。福祉を学ぶということ、学生さんたちが集まり、現場に巣立つという中で、実は自分がとても大きな恵みを受けていたのだなと実感をしています。

新任教員紹介

五十嵐 淳子  
上智社会福祉専門学校保育士科に着任いたしました五十嵐淳子と申します。専門は保育学・幼児教育学で、保育者養成の仕事に携わっております。様々な年代の学生達の意欲的な学びの姿から、日々多くの刺激を受けており、充実した日々を送らせていただいていることに感謝しております。また、上智大学のキャンパスで自治体と連携した子育て支援にも取り組んでおります。質の高い保育者養成に努めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



新任職員紹介

志水 真理  
昨年九月より、月・水・金曜日の週三日、事務センターでお世話になっております。

学業と仕事・家庭etc.を両立させて頑張っている学生の方たちから、二〇数年ぶりに働き始めた私も、元気をいただいています。少しでも皆さんの役に立てるように頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉士国家試験対策勉強会のご紹介

社会福祉士・児童指導員科  
二年 藤田 博章

平成二十九年一月二十九日(日曜日)実施の第二十九回社会福祉士国家試験に向けて、国家試験対策勉強会を実施しております。メンバーは社会福祉士・児童指導員科二年生を中心に、介護福祉科の学部生も参加されております。四月下旬から勉強会を実施し、回数は十回を超えました。私は、学習塾の教室長を十数年任されていた経験を活かし、フアンリテイターとしております。勉強会での目標としては、専門学校の合格率で全国一位を目指したいと考えております。

保育士科による子育て支援

社専保育士科では「千代田学」の一環として、地域の子育て支援活動を年間を通じて展開してきました。その活動の詳細は、千代田区のホームページをご覧下さい。(https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/volunteer/tean-ichitan.html)。ここでは、活動に参加した学生の文章をいくつかご紹介(抜粋)します。

な、楽しんでいただけるとの支援助をしようというやる気になった。そして人のために実施内容を考えることは、私に幸せと喜びを与えてくれた。またより良い保育士になったという向上心につながった。(保育士科二年 山口稜弘)

「実際に子育て支援を行うと意外にも「学生さんと話してみたい」「学生さんが行う子育て支援はどんな感じか興味があった」といった保護者の方々がいらした。その為、保護者の方とお話をする機会があり、また保護者の方と一緒に働くことができ、実習では体験することができない「保護者の方のかかわり」を持つことができた。この体験は貴重であり、保護者の方がどのようなことに悩んでいるのか、どのような思いで子育てをしているのか等、直接聞くことができ、現場に出たときに保護者の方とどうかわつていくべきかという部分の参考になった。これは学生が子育て支援を行ったからこそ体験できたことだと考えている。(保育士科二年 岡村泰敬)

「六歳のお子さんを連れてこられた保護者(母親)は、子どもが学生に囲まれて楽しんでる様子を見て、少し離れた場所から見つめていた。クリスマスリースの製作を勧めたところ、遠慮されたが「組み立てるだけなら……。」と子どもの斜め前の場所で制作に参加された。しばらくは私とおしゃべりをしながら、初めは子どもの様子を見ながら手を動かしていたが、だんだんと言葉数が少なくなつて作

上智レンコンプロジェクトが始動

今年度五月末から九月までの期間、「上智大学教職協働・職員協働イノベーション研究」の一環として「上智レンコンプロジェクト」がスタートしています。この企画は、学生



子育て支援の様子 親子でおもちゃ作り

ウェルカムコンサートの様子



業に集中。完成間近になってリースを持ち上げた時にお子さんが居ないのに気づかれたので、隣のテーブルの島に移って別の製作に取り組んでいることを伝えると、急いでリースを仕上げると、急いでみる子どもが移動したことに気づかなかつたこと、自分の時間を持つことがいけないことだったかのよう。子どものために参加したのに、自分が主体となつて楽しむことはいけないことだと感じているのかのように私には見えなかった。そう考えると、子育て支援という中で、これは誰に對しての支援なのかを伝えてもらうことを必要とする参加者もいるかもしれない。(保育士科二年 吉本康子)



上智レンコンプロジェクト ポスター

社専だよりは、ウェブサイトでのダウンロードが可能になりました。つきましては、郵送料削減(郵便による本紙送付の停止)にご協力頂ける卒業生の方は、下記のアドレスまでご一報下さい。(郵便番号、住所、氏名、学生番号をお知らせ下さい。)何卒、よろしく願いいたします。メールアドレス shasen@cl.sophia.ac.jp

が学校から出て地域の活動に参加したり、地域の人々が学校にきて学生とコラボしたりする継続的な活動の総体です。既に、家族介護にかかわる杜協のイベント、「定形外家族」と称されている当事者と語りの場、児童養護施設の見学と意見交換、卒業生が現役学生に仕事上の失敗談をあえて伝えて福祉職場との距離を縮めていく「ブルペンプロジェクト」など、多様な企画が実施されています。上の欄に紹介された昨年度中の保育士科学生による地域の子育て支援活動も、このレンコンプロジェクトに合流する形となりました。一〇月一日には、それらの人々が四谷キャンパス十二号館に集まり、交流や学びの共有を楽しむイベントが開催されます。在校生、卒業生の皆さま、是非お越し下さい。(問い合わせ:三浦nutor@gmail.com)